

今週のメニュー

■トピックス

◇「塩ビものづくりコンテスト2011」 審査発表&表彰式

—新たなPVCの可能性を拓く作品が選ばれました—

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

■随想

◇組織の匂い（連載47）

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

■お知らせ

○塩ビものづくりコンテスト2011展示会のご案内

■編集後記

■トピックス

◇「塩ビものづくりコンテスト2011」 審査発表&表彰式

—新たなPVCの可能性を拓く作品が選ばれました—

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

7月6日に、東京一ツ橋の如水会館で、「塩ビものづくりコンテスト2011」の表彰式と記念パーティーが約120名の関係者の参加を得て開催されました。

昨年10月20日にキックオフしたこの「塩ビものづくりコンテスト2011」には、173件の作品応募と158件の製品応募、合計331の応募が寄せられ、大竹審査委員長をはじめ審査員の皆様の厳正中立な審査で、一次審査、最終審査を経て、準大賞、優秀賞、特別賞、入賞が決まりました。

今回は大賞がなく、準大賞が二件という結果になりました。審査員の方々によれば、限られた期間にしては良い作品がたくさん集まったが、塩ビの特長をもっとよく理解する時間があれば、もっともっと面白い作品がでていただろう、ということで、今回は敢えて“大賞”を見送られたとのことでした。塩ビと業界、デザイナーに対する励ましの言葉と受け止めております。

準大賞のひとつは、鹿児島県種子島の主婦が応募さ



中原実行委員長
(VEC 会長) 挨拶



準大賞表彰

れた作品で、ご自身が素材を集めて作られた雨傘の「優^{やささめ}雨」です。和紙の温もりを活かした作品で、プロの集団が支援して最終審査に向けたプロトタイプが作られました。はるばる種子島から参加いただいたそのお姿には、強い情熱があふれていました。

また、もうひとつは名古屋市の高校生の作品で、そのアイデアを地元のメーカーが形にした産学協同開発の「サクラ」です。セーラー服姿でのご参加となり、会場を沸かせました。素材としての塩ビに惹かれ、学校の同級生と一生懸命考えていたのが実ったとのこと。その過程で、塩ビ加工企業がとても親切に助けてくれて嬉しかったと語っていました。学校と企業との産学協同開発の成果でもあります。作品は軟質塩ビ素材の蛍光性を活かしたもので、折り紙の様に自由な立体形を作って、小物入れの容器や飾りにできるシンプルで楽しいものです。

後援頂いた経済産業省の川上審議官からは、塩ビの素材としてのおもしろみ、環境特性を評価するお言葉に加え、このようなデザイナー及び塩ビの川上から川下を巻き込んだ協力が、日本のものづくりの活性化につながることを期待するとの激励をいただきました。

また、日本インダストリアルデザイナー協会の浅香理事長にも、デザインを通じて競争力のあるものづくりを行うことの重要性、そして、素材としての塩ビのもつ可能性の大きさを語っていただきました。



中原実行委員長から受賞者に表彰状と副賞の目録が手渡され、出席者の盛んな拍手で祝福されました。参加頂いた多くのメディアの方からも熱心な取材があり、無事に表彰式が執り行われました。

引き続き、受賞者を主賓に、記念パーティーが行われ、加工団体、商業団体から、今回のコンテストがサプライチェーンをつないだ協力を拓いた意義を協調するコメントがありました。是非とも“大賞”を出すべく次に向けて頑張りたいとの声もあがりました。

中締めをした後でも、受賞者、審査員、そして産業界の多くの方が残り、歓談が続きましました。このコンテストを陰で支えた塩ビものづくりコンテスト実行員会の事務局にとって、忘れられない一日になりました。このコンテストが引き続いて開催され、これまで塩ビに関心の無い方も参加して、さらに発展していくことを関係者一同願っています。

尚、この受賞作品と惜しくも入選を逃した作品について、応募者の了解を得て、東京、名古屋、大阪の各会場で展示会を行いますので、是非、見に来て頂きたいと思います。(了)

[受賞作品・製品の写真はこちら](#)からご覧いただけます。

展示会の詳細は[日本ビニル工業会のHP](#)をご参照ください。

◇組織の匂い（連載47）

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

悪臭は典型7公害の一つですから、匂いも環境問題かもしれません。食品の香りは文化で、それこそとんでもないと思う匂いをおいしいと感じるのにはびっくりします。鰻の蒲焼の匂いなど日本人は大好きですが、とんでもない悪臭だという外国人もいます。納豆も味噌も我々には良い香りでも外国人にはそうでないかもしれません。カマンベールチーズやブルーチーズなど昔の日本ではだめでしたが今では何処のスーパーにもある人気商品です。タイのおコメは香り米というほどで、私は大好きなのですが多くの日本人は苦手なようです。

さて、日本では殆どの勤め人が、定年まで一つの組織で過ごします。自分の体臭はわからないといいますが、いつの間にか所属する組織の匂いが染み付いてくるのです。それがわかるのがいろいろの組織を代表して出席する政府や団体の委員会の場です。もっとよくわかるのが組織を離れて財団や社団など多くの会社や役所からの出向者が集る団体などに出向して一緒に数年間働いてみる時です。

不思議なことに人それぞれ所属していた組織の匂いを持っているのです。おそらく実際の匂いではなく、育った文化習慣環境からくる違和感なのだと思いますが、A社からの出向者は、若い人も年配の人もいつも戦闘的で陰しい感じを示し、B社からの出向者はなんとなくおっとりしているなどの印象です。役所から来た人は明らかに民間の人とは異なる匂いを持っています。そういう目で見るとかなのかもしれませんが、よくよく聞いてみるとA社の社員がいつも戦闘的で陰しいのは、「社内の競争に勝てなくて社外の商売に勝てるか！」と檄を飛ばされているからとか、B社の人がおっとりしているのは会社の利益も社員の給料も「そこそこ」であるからとか、を耳にすると納得できます。どちらが人間にとって幸せかは判りません。

昔は、出向というと片道切符と言われ、その会社での使命を終え最後の職場というイメージがありましたが、20年くらい前からすっかり変わりました。出向経験者が会社に戻ってから評価され、トップに就任するような事例も増えてきました。

この機会に、自分の所属していた組織を客観的に見直すこともできます。だから、一つの組織の中だけで過ごすよりも、複数の組織を体験することが重要だと思うのです。匂いという言葉を使いましたが、出向体験をして異なる文化を持った人たちとの仕事や生活をすると良いと思います。私の場合出向中に年間600枚の名刺がなくなりました。それだけ新しい知己を得たことになります。

組織の伝統などを説く名門大学では、生え抜きの教員がたくさんいて外部の教員は外様扱いだったようですが、最近では学外から迎える教授の数が多いほど良い大学と評価されるようになって来ました。伝統は人が受け継ぐのではなく、組織が受け継ぐ時代になったようです。しかし、あまり短期間に組織を転々とすると何処に心の拠り所を求めるのか少し心配にもなります。

会社を離れてからいろいろの委員会に「企業経験のある中立委員」として呼ばれることが多くなりました。その中で、企業側委員の発言を聞くと本当に切なくなることがあります。少しでも自社のことになると目の色が変わるのがわかります。発言内容や提出される

資料にはほとんど新味がなく、広報や宣伝でとっくに公開されている内容ばかりです。「ここだけの話ですが」などともったいぶって話す内容も公知のものばかりです。社外の委員会などに出てくる人は社内でもきっと優秀に違いないのですが、独創的な意見を言う人はほとんど見当たりません。

役所もとっくに知っていて、企業側委員があまり独創的な意見を言うと、それが業界の総意として受け入れてよいのか戸惑います。だから業界なら当然と思われる総論賛成各論反対などの当たり障りのない発言が喜ばれるのです。

どんな人でも同じ組織に長くいるとその組織の匂いが強く染み込んでしまうのです。だから同窓会やOB会は居心地がよいのでしょう。若い人はなるべく出向経験などで他人の匂いをかぎ、自己の幅を広げることをお勧めします。(了)

前回：[「同じ話、自慢話、お説教」\(連載46\)](#)

■ お知らせ

○塩ビものづくりコンテスト2011展示会のご案内

塩ビものづくりコンテストの受賞作品・製品などの展示会が東京（7月7日(木)～9日(土)）、名古屋（7月13日(水)）、大阪（7月19日(火)）にて開催されます。

ご自由に入場いただけます。ぜひ、ご来場ください。

各会場の案内図などの詳細は、[日本ビニル工業会のHP](#)よりご覧ください。

■ 編集後記

先日、八ヶ岳の麓、野辺山で満天の星を眺める機会がありました。流れ星やスペースシャトルの軌跡も見ることができ、ヒューストンでお会いした古川さんが夢を実現されたことに思いを重ねて、しばし、宇宙に溶け込む自然の中で、時間を忘れて過すことができました。自然災害の影響もあり、厳しい環境が続きますが、もう直ぐ来る夏休みに、親子と一緒に自然の中で過すことも大切と思います。(円行)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp

